

**2011年度**  
**海外研修・研究等助成金**  
**募集案内**

## 財団法人 企業経営研究所について

財団法人企業経営研究所は、1982年7月に、スルガ銀行の創立90周年を記念し、地域経済社会の新しい方向を模索し、中堅・中小企業経営の健全な発展、育成に寄与することを目的として同社により設立されました。

当財団では、設立趣意に則り、地域の中堅・中小企業の実証的調査研究や企業の戦略的行動に必要な情報の提供などを通じて、企業の健全な発展と育成に努めてまいりました。さらに、1996年4月より、国際交流支援事業として次の4つの事業を追加しました。

- 1.外国人・研修研究等助成事業
- 2.海外研修・研究等助成事業
- 3.国際交流功労顕彰事業
- 4.国際交流活動助成事業

これらの事業を通じて、地域経済社会の国際化に対応する人材を育成するとともに、人、物、情報、技術、文化などの内外の交流活動を積極的に支援しております。

- 名 称 財団法人企業経営研究所
- 設 立 1982年7月26日
- 基本金 3億円
- 理事長 岡野光喜(スルガ銀行 代表取締役社長兼CEO)
- 所 長 磯邊剛彦(慶應義塾大学経営大学院 教授)
- 所在地 〒411-0036 静岡県三島市一番町15番26号  
ミシマ・スルガビル4F

## 海外研修・研究等助成金について

この助成金は、海外において技術や技能、知識などを修得または研究し、帰国後、教育の現場でそれを活かし、子供達に夢や感動を伝え、分かち合うことを志す方を対象に助成するものです。

## 近年の助成対象 研修・研究テーマ

- 韓国の小学生教育に学ぶ  
ーICT活用・英語教育・教員研修の視点からー
- ESD先進国ドイツに学ぶ環境教育  
ー地域づくり参加型の「INOHANAプロジェクト」の構築を目指してー (研修報告別添)
- 特別支援学級の児童も含めた数概念形成・算数の基礎学力向上に向けた学習具・教材・授業についての研修
- 「ネット先進国」米国に学ぶインターネット接続可能なポータブル機器(携帯電話)を介したネットいじめ・脅しなどに対する効果的な指導および啓発方法について
- コミュニケーション力を育成する異世代交流活動を効果的に行うための授業づくりを考える

## 2011年度 海外研修・研究等助成金 応募要綱

助成金交付額	1件当たり最高50万円
対象テーマ	海外において技術や技能、知識などを修得または研究し、帰国後、教育の現場でそれを活かし、子供達に夢や感動を与え、分かち合う趣旨・内容であること ※左ページに例示したテーマ以外でも、上記に合致する内容であれば幅広く受け付けます。ご不明の際は弊所担当者宛お問い合わせ下さい。
応募資格	静岡県内の小学校、中学校、特別支援学校、および高等学校に常勤する教職員の方で、次の事項のすべてに該当する方を対象とします。 (1) 海外での研修、研究を志す意欲旺盛な方 (2) 原則として年齢50歳以下、勤続3年以上の方 (3) 勤務先学校長の推薦が得られる方 ※なお、各学校において複数名応募いただいても結構です。
助成対象期間	12ヵ月以内（原則として決定通知後6ヵ月以内に研修開始）
応募方法	下記の必要書類を当研究所まで郵送にて提出して下さい。 (1) 助成金交付申請書（所定様式※） (2) 勤務先学校長の推薦書（所定様式※） ※助成金交付申請書および推薦書は、当研究所のホームページよりダウンロードしてご利用下さい。 URL: <a href="http://www.srgi.or.jp">http://www.srgi.or.jp</a>
採用予定数	若干名
募集締切日	2011年5月31日（火） 締切当日消印有効
選考	(1) 当財団の選考委員会にて審査・選考の上、理事長が決定します。 (2) 選考の結果は、2011年6月中旬（予定）に、申請者・推薦者宛書面にて通知します。

### ◎交付対象者への注意事項

交付方法	助成金は、原則として一括交付します。
報告の義務	対象となる研修活動の開始および終了時に、下記の書類を提出していただきます。 (1) 研修開始通知書 (2) 助成金使途報告書・研修報告書 (3) 研修レポート

# ESD 先進国ドイツに学ぶ環境教育

## ー地域づくり参加型の「INOHANA プロジェクト」の構築を目指してー

浜松市立三ヶ日中学校 教諭 山田 達夫

グローバル化、環境問題、情報化など地球規模で大きな社会的変化や課題がある今日、世界各国で「ESD (Education for Sustainable Development) : 持続可能な開発のための教育」の取り組みが始まっている。ESD は、地球的視野で考え、様々な課題を自らの問題としてとらえ、身近なところから取り組み、持続可能な社会づくりの担い手となるよう個人を育成し、意識と行動を変革することを目指す教育のことである。わが国においても、地球環境を保全でき、持続可能な社会づくりの担い手となる人間を、初等中等教育の段階から育成することを目指している。そこで、ESD 先進国であるドイツを研修地とし、ESD の趣旨を生かした教育プロジェクトの手法と成果、課題を明らかにすることを研修の目的とした。

現地では、チューリッゲン州文科省の計らいで、ESD 実践校である幼稚園・小中学校・発達支援学校をはじめ、協力企業・NGO 団体、さらに行政機関（州文科省・市長）を訪問することができた。

ランゲンヴェッツェンドルフ中学校は、行政・ホテル企業と連携して「ミニコック」プロジェクトを進め、生徒が地域の食料・食材を学びながら、コック業の仕事に取り組んでいる。また、生徒の手によってつくられた校庭は、ミツバチの巣箱、野菜農園、ビオトープ、草木など自然と共存する空間であり、ESD 実践の場となっている。

「モーレンタールの雀たち」幼稚園は、園と行政（市）と NGO が協力した ESD 実践校で、市の特産物である「りんご」をテーマにした「自然・果物・ジュース・味わい」プロジェクトを進めている。五感を使った自然体験や興味・関心を引き出す学習など園児の発達段階に合わせた活動が生まれ、NGO がこのプロジェクト用に考案した教材を提供している。

シュタインハイド小学校は、マルチプリケーター (ESD 普及員) でもある校長がリーダーシップをとる ESD に熱心な小学校である。特徴的なことは、ESD を取り入れた学校経営にある。4つの学校経営目標とは、①

持続可能な教育 (ESD) の推進。② 確かな基礎学力。③ しつけ (あいさつ、他人を敬う、人との接し方、誠実に対応する) を身に付ける。④ 保護者、地域住民を含めた全員参加の学校経営である。

さらに、ESD を推進している州文科省や州教員研修所、アポルダ市長への訪問を通して、教員研修、マルチプリケーター養成の現状を知ることや、現場の教員を含めた ESD 関係者と意見交換をする貴重な機会をもつことができた。

今回の研修・視察の結果、明らかになったことは次の3点である。ESD の実践には、① 教員のアイデアや工夫が必要で、教員がチームを組むことで教科横断的な学習を展開している。② 学校、行政、企業、NGO 等の連携、サポート体制ができています。③ 学校や地域にあるさまざまな資源 (自然、森、校庭、人材、歴史等) を活用している。また、ESD 推進のキーワードは、「つなぐ」と感じた。「人と人」をつなぐ、「人と自然」をつなぐ、「学校と社会」をつなぐ、そしてこれらをつなぐために体験や活動が存在するという構図である。また、「つなぐ」役目は、学校の教員、行政の ESD 担当官、NGO 職員など、そこには必ず「キーパーソン」となる人物が存在した。学校は社会の縮図と位置づけられ、ESD を通して、社会に出た際に役立つ資質を育成している。つまり、ESD はすべての人の課題であり、人づくりである。

(※勤務先学校は助成時点のものです)



シュタインハイド小学校  
訪問

お問い合わせ先

**財団法人企業経営研究所  
(国際交流支援事業 事務局)**

〒411-0036 静岡県三島市一番町15番26号  
ミシマ・スルガビル4F

TEL:055-981-3033 FAX:055-981-5888

E-Mail:webmaster@srgi.or.jp

URL:<http://www.srgi.or.jp>